

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	憲法	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	三科 俊	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	弁護士として法律事務所に在籍・勤務					
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 憲法の基本観念と人権の概念について概念を説明することができる</li> <li>2. 日本国憲法の基本原理と人権保障・統治構造の概念を説明することができる</li> <li>3. 憲法の理解を通じ、法学的思考を身につける</li> </ol>					
授業概要	日本国憲法の特徴と全体像が理解できるような授業を行う。 日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかる。					
テキスト	「憲法」姫路大学					
授業計画	第1回	憲法を含む法学入門について				
	第2回	国民主権・平和主義				
	第3回	新しい人権①				
	第4回	新しい人権②				
	第5回	平等権				
	第6回	思想良心の自由				
	第7回	信教の自由				
	第8回	表現の自由				
	第9回	経済的自由権				
	第10回	参政権・社会権				
	第11回	国会・内閣				
	第12回	裁判所・司法				
	第13回	問題演習				
	第14回	裁判実務①				
	第15回	裁判実務②				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期						
科目名	情報処理技術 I (基礎)	授業形態	演習	単位数	1 単位						
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無	○								
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。										
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、掲示物・おたより・お知らせ文書ほか文書を必要とする。書類などを作成する際にWordの知識と技術が必要となる。本教科では、Wordを基礎から学習し、効率的に活用できるスキルを身につける。また、情報システムと社会生活について理解する。 Excelの基本を理解する。										
授業概要	前期授業科目情報リテラシーに引き続き、Wordの演習を行う。 本試験対応の模擬試験プログラムで更に実力を向上させ、MOS検定合格を目指す。										
テキスト	MOS攻略問題集Word2019・情報リテラシーと処理技術										
授業計画	第1回	グラフィック要素の挿入と書式設定1									
	第2回	グラフィック要素の挿入と書式設定2									
	第3回	模擬1(演習)									
	第4回	模擬1(テスト)									
	第5回	模擬2(演習)									
	第6回	模擬2(テスト)									
	第7回	模擬3(演習)									
	第8回	模擬3(テスト)									
	第9回	模擬4(演習)									
	第10回	模擬4(テスト)									
	第11回	模擬5(演習)									
	第12回	模擬5(テスト)									
	第13回	実力判定テスト①									
	第14回	実力判定テスト②									
	第15回	教育現場におけるICTの活用と展望について									
単位認定 ・ 評価方法	<p>期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席</p> <p>平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>	総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%
期末	中間	平常	出欠								
50%	25%	10%	15%								

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	情報リテラシー	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、掲示物・おたより・お知らせ文書ほか文書を必要とする。書類などを作成する際にWordの知識と技術が必要となる。本教科では、Wordを基礎から学習し、効率的に活用できるスキルを身につける。また、情報システムと社会生活について理解する。 Excelの基本を理解する。						
授業概要	演習を通じ、パソコン環境設定、基本操作、Wordの基礎から活用操作まで学習し、MOS検定合格を目指す。また、テキスト教材を中心に情報システムとセキュリティ、コンピュータ、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。						
テキスト	MOS攻略問題集Word2019・情報リテラシーと処理技術						
授業計画	第1回	本演習のガイダンス、PC環境設定①					
	第2回	PC環境設定②					
	第3回	情報モラル、情報セキュリティ					
	第4回	情報ネットワーク、インターネット					
	第5回	オペレーティングシステムの6つの管理項目					
	第6回	情報化社会における情報活用能力					
	第7回	Wordの基本操作、新規文書の作成					
	第8回	文書の編集①					
	第9回	文書の編集②					
	第10回	表やリストの管理①					
	第11回	表やリストの管理②					
	第12回	参考資料の作成と管理					
	第13回	グラフィック要素の挿入と書式設定					
	第14回	情報システムと社会生活との関わりについて					
	第15回	科目試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期								
科目名	健康科学	授業形態	講義	単位数	1単位								
担当教員	宮崎 孝一郎	実務経験の有無		○									
実務経験教員の経歴	他大学での勤務												
授業のねらい (到達目標)	1.「健康」の概念の変遷を理解し、我が国における健康の諸問題が説明できる。 2.生活習慣(特に運動、栄養、休養)の在り方が、より健康になるため必要条件であることを理解し、具体事例をあげて説明できる。 3.自分のBMIや行おうとする目標運動強度、運動によるエネルギー消費量などの計算ができる。 4.自分の生活習慣を把握し、より健康になるために何が必要で、どう取り組めばいいのか説明できる。												
授業概要	健康に影響を及ぼす主要な要因(運動、栄養、休養)及び嗜好品(タバコ、飲酒)について概説する。												
テキスト	健康科学												
授業計画	第1回	健康の概念の変遷											
	第2回	我が国の健康問題											
	第3回	栄養と健康											
	第4回	食生活のバランス											
	第5回	体重と健康の関連											
	第6回	体力とは											
	第7回	運動の生理学											
	第8回	定期的な運動実践の効果											
	第9回	運動の実践											
	第10回	休養と健康											
	第11回	睡眠											
	第12回	ストレスと健康の関連											
	第13回	積極的休養											
	第14回	喫煙について											
	第15回	飲酒について											
単位認定 ・ 評価方法	中間レポート 期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		平常評価:授業態度、提出物等	総合評価算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%
期末	中間	平常	出欠										
50%	25%	10%	15%										
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する													

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	スポーツ(実技)	授業形態	実技	単位数	1単位		
担当教員	宮崎 孝一郎	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	他大学での勤務						
授業のねらい (到達目標)	生涯にわたって運動・スポーツを自ら実践することができる能力を養う						
授業概要	各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。 仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持・増進を図る。						
テキスト	特になし						
授業計画	第1回	ラジオ体操・器械運動					
	第2回	ウォーキング①					
	第3回	ウォーキング②					
	第4回	バレーボール①					
	第5回	バレーボール②					
	第6回	バドミントン①					
	第7回	バドミントン②					
	第8回	ポートボール①					
	第9回	ポートボール②					
	第10回	バスケットボール①					
	第11回	バスケットボール②					
	第12回	スケート①					
	第13回	スケート②					
	第14回	ドッジボール①					
	第15回	ドッジボール②					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:服装及び授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	教職論	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年													
授業のねらい (到達目標)	小学校教諭や幼稚園教諭等をはじめとする, 教職に対する理解を深めるとともに, 専門職としての教師に必要な素養の質的向上を図る。													
授業概要	教師像の歴史の変遷, 教師の特性, 教職を取り巻く現況, 教育実習について, 教員採用試験について													
テキスト	姫路大学「教職論」													
授業計画	第1回	先生・師匠・教師・教職・教職員												
	第2回	教師の一日 その1												
	第3回	教師の一日 その2												
	第4回	教師の特性												
	第5回	聖職者としての教師, 労働者としての教師, 専門職者としての教師												
	第6回	教育課程と教師												
	第7回	教師の身分, 懲戒, 権利等												
	第8回	教師の身分, 懲戒, 権利等												
	第9回	働き方改革と教師												
	第10回	教師対象の研修, 初任者研修と10年経験者研修												
	第11回	教師対象の研修, 初任者研修と10年経験者研修												
	第12回	教師対象の研修, 初任者研修と10年経験者研修												
	第13回	教職の職階と中間管理職的職位・管理職												
	第14回	スタートカリキュラムと教師												
	第15回	若手を育てる教師												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	教育原理	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年						
授業のねらい (到達目標)	教育思想, 世界の近代教育史, 日本の江戸末期から令和にいたすまでの大まかな教育史を学ぶことにより, 教育に関心を持ち, 理解を深められるようです。また教育制度面の特徴をつかめるようにする。						
授業概要	教育の基本的概念, 制度, 歴史面について理解を深めるとともに, 教育とは何か, 学校とは何かについて, 仕組みや方法, 意義をつかむ。						
テキスト	姫路大学「教育原理」						
授業計画	第1回	オリエンテーション「教育」「学校」「先生」-教育とは何か-					
	第2回	「教育」とは何か -ヒトとチンパンジーとの違い-					
	第3回	教育思想家					
	第4回	教育思想家					
	第5回	「教育」の歴史 -欧米の教育-					
	第6回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(江戸末期)-					
	第7回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(明治・大正)-					
	第8回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(大正)					
	第9回	「教育」の歴史 -近代日本の教育(昭和)					
	第10回	「教育」の歴史 -近代日本の教育-					
	第11回	教育における今日的課題					
	第12回	教育における今日的課題					
	第13回	教育における今日的課題					
	第14回	諸外国の教育 -隣国の教育は-					
	第15回	諸外国の教育					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	特別支援論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児を支える理念について学び、障害児及びその支援について理解する。</li> <li>2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。</li> <li>3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。</li> </ol>						
授業概要	障害児保育の歴史と障害の特性について学ぶ。個々の障害特性を理解し、インクルーシブ保育を実践する視点から保育者として必要な力を身に付ける。						
テキスト	「特別支援論 I」姫路大学						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	障害の概念					
	第3回	自閉スペクトラム症児への支援					
	第4回	発達障害児への支援					
	第5回	病弱児への支援					
	第6回	肢体不自由児への支援					
	第7回	知的障害児への支援					
	第8回	視覚障害児への支援					
	第9回	聴覚障害児への支援					
	第10回	重症心身障害児への支援					
	第11回	愛着障害について					
	第12回	五感と固有感覚、前庭感覚について					
	第13回	感覚統合療法					
	第14回	TEACCHプログラム					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期	
科目名	こども理解の理論と方法	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任を務めてきた。教育現場で培った子どもの発達理解に関する知見を基に、発達段階に応じた子ども理解の視点と支援方法を具体的に伝える。					
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを助力する立場、いかに支援できるかを理解できる。</li> <li>・教育場面におけるこどもが直面している困難、また援助について事例を通して、対応法を習得する。</li> </ul>					
授業概要	<p>少子化時代を迎えた日本の将来に対する不安は、国民感情を根底に危惧の念を呼び起こしており、それは現代の子どもたちを取り巻く状況にも強く反映されているといえる。こうした現代的な子どもに関わる諸課題に、どのように立ち向かうべきかが問われている。もはや文部科学省だけの取り組みで解決できる問題ではなく、社会全体が未来を見据えた子どもの成長像について、明確なイメージを共有することが求められている。本授業では、こうした視点に立ち、こども未来学科の在籍学生が、考察・討議・演習を通して、子どもの成長についての理解を深め、日本の子どもの未来に対するビジョンを描けるようにすることを目的とする。</p>					
テキスト	『新時代の保育双書 子ども理解と保育・教育相談』小田豊編 (みらい)					
授業計画	第1回	発達アセスメントと支援				
	第2回	知的・発達の側面のアセスメント				
	第3回	情動的側面のアセスメント				
	第4回	医学・生理学的側面のアセスメント				
	第5回	クラス集団のアセスメント／家庭・保護者のアセスメント				
	第6回	子どもに対する発達アセスメントと支援の実際				
	第7回	保育・教育の場における発達アセスメントと支援の進め方				
	第8回	保育におけるこども理解の基本				
	第9回	子ども理解の理論的枠組み				
	第10回	子ども理解から始まる保育計画				
	第11回	子ども理解を深める保育者養成				
	第12回	子どもの遊びと生活				
	第13回	気になる子ども・特別な配慮を要する子どもとの関わり				
	第14回	家庭・地域・専門機関、小学校との接続				
	第15回	こども理解のための方法、こども理解の今日的課題				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	学校・学級経営論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年						
授業のねらい (到達目標)	1. 学校教育の動向を理解する 2. 学校や教育行政機関の目的とその実現に学校経営の観点から理解する 3. 学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する 4. 学級経営に関わる指導力を身につける						
授業概要	現代の学校教育に関する経営的事項について基礎的な知識を身につけるとともに、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する理解を図る。学級が抱える今日的な課題について理解を深め、学級経営に関わる指導力の獲得を目指す。						
テキスト	学校・学級経営論(姫路大学)						
授業計画	第1回	学校を巡る近年の様々な状況の変化					
	第2回	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題					
	第3回	近年の教育政策の動向					
	第4回	公教育の目的を実現するための学校経営」					
	第5回	学校評価の基礎理論を含めたPDCAについて					
	第6回	地域との連携を基盤とする開かれた学校づくりの推進の背景					
	第7回	学校における危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性					
	第8回	学校を取り巻く新たな安全上の課題とその取り組み					
	第9回	実践的学級経営の重要性					
	第10回	実践的学級経営の重要性					
	第11回	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働					
	第12回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)	
科目名	音楽表現(ピアノ)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	石川美穂・寺内めぐみ・市嶋融介・林麻里子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい (到達目標)	音を間違え、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。					
授業概要	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。					
テキスト	「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)	
科目名	音楽表現(ピアノ)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	石川美穂・寺内めぐみ・市嶋融介・林麻里子	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい (到達目標)	音を間違う、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。					
授業概要	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。					
テキスト	「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	音楽表現(声楽)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	石川 美穂	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	個人教室でのピアノレッスンの他、障害児施設での余暇講師として音楽活動を行う。また、演奏会やオーディションに参加することで自ら技術の向上を目指す。					
授業のねらい (到達目標)	子どもの豊かな感性や表現力、想像力を育むために、指導者に必要な音楽的技術を身に付け、保育者としての感性を養う。					
授業概要	1)楽譜を読むための音楽的基礎知識を学ぶ 2)音楽表現における乳幼児の発達過程を学び、指導者としての感性を養う。 3)声楽等の演習を通して、音楽指導に関する専門的知識・技能・表現力を身につける。					
テキスト	「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	楽譜の基礎知識				
	第2回	楽譜の基礎知識				
	第3回	音名				
	第4回	記号と標語				
	第5回	記号と標語				
	第6回	音程				
	第7回	音程				
	第8回	和声とコード				
	第9回	和声とコード				
	第10回	音階				
	第11回	音階				
	第12回	コード伴奏課題				
	第13回	コード伴奏課題				
	第14回	音楽理論の総合問題				
	第15回	音楽理論の総合問題				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	言語表現	授業形態	講義	単位数	1単位	
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領に示された保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</li> <li>2. 幼児の発達や学びの過程を理解するとともに、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付ける。</li> <li>3. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、保育を実践する力を身に付ける。</li> </ol>					
授業概要	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、子どもが豊かな言語表現活動を行うために必要な児童文化財に関する知識や保育技術の習得を目指す。授業を通して、音や言葉の面白さを知るとともに、わらべうた、言葉あそび、絵本、お話、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアターなど、さまざまな指導技術を学ぶ。さらに、模擬保育を通して、子どもの言葉を育む保育を展開する力を身に付ける。					
テキスト	ことばと表現力を育む児童文化〈第2版〉 萌文書林					
授業計画	第1回	授業の目的と概要、受講の心得等について知る。 幼稚園教育要領の基本と領域「言葉」の内容を確認する。				
	第2回	領域「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、指導上の留意点を確認する。領域「言葉」における小学校への接続を見据えた保育の展開を知る。				
	第3回	子どもの言葉を育むさまざまな児童文化財を知る。				
	第4回	ことばの発達と遊び いろいろなことば遊びに関心をもつ。				
	第5回	ことばの発達と遊び いろいろなことば遊びを知る。				
	第6回	様々な絵本の種類を知る。子どもの発達に合わせた絵本の選び方を知る。				
	第7回	図書館での教材研究 絵本選び				
	第8回	図書館での教材研究 絵本選び				
	第9回	領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成				
	第10回	領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成				
	第11回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第12回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第13回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第14回	模擬保育と振り返り 絵本の読み聞かせを中心に模擬保育と振り返りを行う。				
	第15回	児童文化財を生かしたさまざまな保育実践を知る。 どのような児童文化財を生かした保育が展開されているかを知る。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席  平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	造形表現	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師						
授業のねらい (到達目標)	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。						
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。						
テキスト	新造形表現 理論・実践編						
授業計画	第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携(「図画工作」)の学習指導要領					
	第2回	造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴					
	第3回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価					
	第4回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価					
	第5回	教材研究を伴う製作I(えがく)					
	第6回	教材研究を伴う製作I(えがく)					
	第7回	教材研究を伴う製作I(つくる)					
	第8回	教材研究を伴う製作I(つくる)					
	第9回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)					
	第10回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)					
	第11回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)					
	第12回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)					
	第13回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)					
	第14回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ					
	第15回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	身体表現	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	山田 すみ江	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立保育園、私立幼稚園等、運動指導の経験を生かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的に指導を行う						
授業のねらい (到達目標)	様々なからだの動きを体感することを通じて、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を捉えることができる。実際に動いて感じたことを保育の場面で、どう生かすことができるかを考え説明できる。						
授業概要	幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていく						
テキスト							
授業計画	第1回	こどもの運動の特性を理解する					
	第2回	身近な遊びからイメージを広げる①					
	第3回	グループ発表					
	第4回	じゃんけんの特性をいかした身体表現①					
	第5回	じゃんけんの特性をいかした身体表現②					
	第6回	じゃんけんあそびの展開 集団あそび					
	第7回	身近な素材を利用した身体表現活動① 縄					
	第8回	身近な素材を利用した身体表現活動② 新聞紙					
	第9回	用具などを操作する動き、遊び、表現① フラフープ					
	第10回	用具などを操作する動き、遊び、表現② フラフープ					
	第11回	用具などを操作する動き、遊び、表現② ボール					
	第12回	用具などを操作する動き、遊び、表現② ボール					
	第13回	リズムカルな身体活動と身体表現①					
	第14回	リズムカルな身体活動と身体表現②					
	第15回	リズムカルな身体活動と身体表現③					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	こどもと人間関係	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	原田 明子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育園での勤務経験から、子どもの発達を促す保育内容について理論に基づき実践的指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容を構成する人間関係の基礎理論を理解する。</li> <li>・子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。</li> <li>・保育の全体構造における人間関係に関して総合的に援助・指導が行えるような理論や知識を習得する。</li> </ul>						
授業概要	1) 乳幼児を取り巻く人的環境について理解する。 2) 現代社会の人間関係の諸問題を理解し、子どもが豊かな人と関わる力を育成するための、保育者の指導・援助などのかかわり方を理解する。						
テキスト	姫路大学「こどもと人間関係」、保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、認定こども園教育保育要領						
授業計画	第1回	子どもの育つ環境を理解し、環境からさまざまな影響を受ける他者と関係					
	第2回	子どもを取り巻く環境と子どもが人と関わる力を育てるには					
	第3回	領域人間関係のねらいと内容					
	第4回	メディアが子どもの成長に与える影響					
	第5回	人間関係作りを支える保育者の役割					
	第6回	基本的信頼関係と人間関係					
	第7回	自己主張・葛藤体験・他者受容とは					
	第8回	遊びの中で育つ人と関わる力①					
	第9回	遊びの中で育つ人と関わる力②					
	第10回	乳児期の人との関わり①					
	第11回	幼児期と人との関わり②					
	第12回	主体性、自発性、自立性、創造性など個の育ちと集団の関係性					
	第13回	幼児期と学童期の育ちの連続性と人と関わる力					
	第14回	まとめ：乳幼児期の人と関わる力を育てるとは					
	第15回	科目修了試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	こどもと環境	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2. 子どもを取り巻く様々な環境を理解し、関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力を身につける。					
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 子どもの発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解する。					
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 環境					
授業計画	第1回	環境とは何か？ 環境の定義				
	第2回	環境とは何か？ 子どもを取り巻く環境の変化を知る				
	第3回	領域「環境」の理解 ねらいと内容				
	第4回	領域「環境」の理解 環境を通して行う保育				
	第5回	環境の構成 教師の願いを込める				
	第6回	環境の構成 身近な環境の構成				
	第7回	環境の構成 季節や地域の行事				
	第8回	環境の構成 好奇心・探究心を育てる環境				
	第9回	園での実際の環境構成(映像学習)①				
	第10回	園での実際の環境構成(映像学習)②				
	第11回	園での実際の環境構成(映像学習)③				
	第12回	保育者の存在 人的環境の重要性				
	第13回	標識・文字、数量・図形との出会い				
	第14回	ねらいを達成するための環境構成の工夫(校外学習計画)				
	第15回	校外学習				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席  平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度  上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	こどもと表現 I	授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当教員	山田 すみ江	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立保育園、私立幼稚園等での指導の経験を生かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的に指導を行う						
授業のねらい (到達目標)	領域「表現」のねらい及び内容について、他領域と関連づけながら理解を深める。生活や遊びの中で幼児の気づきを促し、豊かな感性や表現の育ちを支えるような表現活動を展開することができる。						
授業概要	領域「表現」の指導に関する保育現場における表現活動についての基礎的知識・技能を身につけ、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の発達に即した援助する力を高める。幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける						
テキスト	「改訂4版 幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして」 ふくろう出版 吉富 功修・三村 真弓 編著						
授業計画	第1回	領域「表現」のねらい及び内容の理解・幼児の表現の発達の理解					
	第2回	表現とは何か、表現の意味を理解する。表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。					
	第3回	環境との対話					
	第4回	身体の諸感覚を通して様々な環境と対話し、感じる、みる、聴く、楽しむことを通して感受性を豊かにする					
	第5回	素材との出会い・素材そのものと遊ぶ					
	第6回	身近な素材に諸感覚を通して触れ、親しみ、その特性を生かして身体・造形・音楽表現などの様々な表現を体験し、幼児の表現活動の可能性を探る。					
	第7回	音遊び・歌遊び・わらべうたを「学びの視点」から捉える					
	第8回	周りの音に耳を澄ます、聴くことの大切さに気付く。					
	第9回	豊かな表現のために					
	第10回	季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景、心情が伝わるような表情豊かな歌唱表現を身につける。					
	第11回	音楽と融合した身体表現・鑑賞					
	第12回	クラシック音楽を活用した身体表現をしながら鑑賞を行う。鑑賞を保育の中でどのように取り上げるか、展開例を考える。					
	第13回	劇表現					
	第14回	幼児の表現行為とそれに伴う作品を見る。幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感する。					
	第15回	スクーリング科目試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期									
科目名	こどもと表現Ⅲ	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	山田 すみ江	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	公立保育園、私立幼稚園等での指導の経験を生かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的に指導を行う													
授業のねらい (到達目標)	領域「表現」において求められる豊かな感性や表現する力、創造性について理解し、こどもの表現活動を支えていく支援について考える。様々な表現活動の実践から知識・技能を養い、協働して取り組む活動を通してより豊かな表現力を身につける。													
授業概要	こどもの表現を考えるにあたり自身の表現について振り返り、歌や身体表現、楽器遊びなどの実践を通して、基礎的な知識・技能を身につけ、豊かな表現へと繋げていく。絵本を題材とした音楽劇では総合芸術として製作・音楽・言葉(台詞)を取り入れ、具体的には曲や歌詞のイメージから情景や登場人物を製作し、楽器や声(歌)、身の回りの音を使って協働して表現していく。													
テキスト	リズム&ゲームにどっぷり/世界の歌を遊ぶリリック・ゲーム67選 子どものためのリリックde発表会/アクション&ビートでつくる音楽鑑賞の授業													
授業計画	第1回	領域「表現」のねらい及び内容について												
	第2回	表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。												
	第3回	こどもの発達と表現について												
	第4回	豊かな環境と表現の関係について理解する。												
	第5回	発達段階を考慮した歌の選曲について-音域・リズム・歴史的背景												
	第6回	歌と身体表現-わらべうたや手遊びの実践-												
	第7回	楽器による音楽遊び-五音音階を使って-												
	第8回	わらべうたや手遊びを体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。												
	第9回	豊かな表現のために -音楽劇の表現について考える												
	第10回	五感で感じとったことをもとに、描く、つくる、音を奏でる、体で表すなど表現の可能性を探る。												
	第11回	協働して表現する-音楽劇の取り組み												
	第12回	鑑賞を保育の中でどのように取り上げるか、展開例を考える。												
	第13回	表現して楽しむ-音楽劇の実践												
	第14回	学習のまとめを発表する。												
	第15回	スクーリング科目試験												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	こどもと言葉	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。					
授業のねらい (到達目標)	領域『言葉』の内容、その他の領域との相互性を学び、言葉の発達の大切さを理解することができる。					
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどものへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深め、発達段階に合わせた関わりと言葉がけの大切さを理解すると共に、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても学ぶ。					
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 言葉					
授業計画	第1回	言葉とは何か？ 私たちが言葉を使って行っていること				
	第2回	母語・日本語の特徴				
	第3回	言葉の形態(聞く話す読む書く)				
	第4回	言葉の役割①				
	第5回	言葉の役割②				
	第6回	言葉の発達(誕生期～乳児期)①				
	第7回	言葉の発達(誕生期～乳児期)②				
	第8回	言葉の発達(幼児期)				
	第9回	保育者の関わり(誕生期～乳児期)				
	第10回	保育者の関わり(幼児期)				
	第11回	豊かに言葉を育む活動①【語用論】				
	第12回	豊かに言葉を育む活動②児童文化財				
	第13回	言葉の問題① 人的環境として				
	第14回	言葉の問題② 障害				
	第15回	視聴覚教材【ピンク帽子のドレミファソ】				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	保育原理	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	齋藤 裕	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	他大学での勤務					
授業のねらい (到達目標)	1. 保育の基礎基本および保育所、幼稚園、認定こども園等の施設の役割を理解する 2. 保育の歴史に関する基礎知識を身につけ、保育制度や施設の変遷について理解する 3. 保育に関する様々な思想を学び、それらと関連する多様な保育の理念や実際の保育を理解する					
授業概要	「保育」とは何かという保育の理念に始まり、保育の基本原則と理念を、保育の歴史を学ぶことを通して理解する。また、保育制度や施設の変遷を学び現代の保育のあり方を考える。 さらに、保育に関する様々な思想、多様な理念や実際の保育施設を知り、保育に関する学びを深める。					
テキスト	「保育原理」姫路大学					
授業計画	第1回	1. 保育の意義 保育理念と概念				
	第2回	児童の最善の利益を考慮した保育				
	第3回	保護者との協働				
	第4回	保育の社会的意義				
	第5回	保育所保育と家庭的保育				
	第6回	保育所保育指針の制度的位置づけ				
	第7回	2. 保育所保育指針における保育の基本 養護と教育の一体性				
	第8回	環境を通して行う保育				
	第9回	発達過程に応じた保育				
	第10回	保護者との緊密な連携				
	第11回	倫理観に裏付けられた保育士の専門性				
	第12回	3. 保育の思想と歴史の変換 諸外国の保育思想と歴史				
	第13回	日本の保育思想と歴史				
	第14回	4. 保育の現状と課題				
	第15回	期末試験				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期	
科目名	子ども家庭福祉	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	子どもへの援助や保護者支援などの現場経験から、保育者に求められる子ども家庭福祉の法制度などの知識について教授する。					
授業のねらい (到達目標)	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学びを深めていく。あわせて、子どもの人権に目を向けながら子ども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とす					
授業概要	望ましい保育者となるために、子ども家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技術・人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。					
テキスト	「子ども家庭福祉」 姫路大学					
授業計画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	子ども家庭福祉の理念と概念				
	第3回	多様な保育ニーズへの対応				
	第4回	貧困家庭・ひとり親家庭への対応				
	第5回	外国籍家庭・ヤングケアラー・ダブルケアラーへの対応				
	第6回	ドメスティックバイオレンスとその防止				
	第7回	子ども虐待とその防止				
	第8回	制度と法体系				
	第9回	児童福祉施設や関係機関				
	第10回	子ども家庭福祉施設の専門職・実施者				
	第11回	少年非行等への対応				
	第12回	障害のある子どもへの対応				
	第13回	母子保健と子どもの健全育成				
	第14回	子ども家庭福祉の動向と展望				
	第15回	まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期		
科目名	社会的養護 I	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>・社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ul>						
授業概要	社会的養護の基本的な知識、専門性、価値観を身につける。事例検討を踏まえながら、社会的養護に関する現状の理解を深めていく。						
テキスト	「社会的養護 I」 姫路大学						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	社会的養護の理念と原理					
	第3回	社会的養護の実施体系					
	第4回	施設養護					
	第5回	家庭養護と家庭的養護					
	第6回	子ども虐待					
	第7回	被措置児童等の虐待防止					
	第8回	日常支援と自立支援①					
	第9回	日常支援と自立支援②					
	第10回	社会的養護に関わる専門職					
	第11回	要保護児童対策地域協議会					
	第12回	社会的養護と地域福祉					
	第13回	社会的養護に関する社会的状況					
	第14回	社会的養護の現状と課題					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期	
科目名	こどもの理解と援助	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任を務めてきた。教育現場で培った子どもの発達理解に関する知見を基に、発達段階に応じた子ども理解の視点と支援方法を具体的に伝える。					
授業のねらい (到達目標)	本授業の目的は子ども理解を深めるための理論と方法を理解することである。					
授業概要	私たちはどのようにしてこころを理解するのだろうか？本授業では、発達心理学や教育心理学の知見をベースに子どものこころを理解するための方法について学ぶ。また、子どものこころの理解を通じた教育や保育の在り方について考察する。					
テキスト	指定なし(授業資料を配布する)					
授業計画	第1回	心とは何か？				
	第2回	子ども理解の意義				
	第3回	子ども理解の視点①				
	第4回	子ども理解の視点②				
	第5回	子ども理解の方法①～観察・記録・省察・評価～				
	第6回	子ども理解の方法②～職員間の情報共有～				
	第7回	子ども理解の方法③～保護者との情報共有～				
	第8回	発達課題に応じた援助と関わり				
	第9回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助				
	第10回	発達の連続性と就学への支援				
	第11回	子ども理解をもとにした援助の実践①～計画・立案～				
	第12回	子ども理解をもとにした援助の実践②～計画・立案～				
	第13回	子ども理解をもとにした援助の実践③～発表・共有～				
	第14回	子ども理解をもとにした援助の実践④～発表・共有～				
	第15回	総まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	幼児教育課程論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年, 山形県小学校教員9か年, 国立大学法人教員養成大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援, 学生支援)2か年, 私立大学教育実習センター5か年						
授業のねらい (到達目標)	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を理解し, 教育課程作成や指導計画立案のための手立てと留意点をおさえる。						
授業概要	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を理解する。また保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価についての意義と実践的な側面として位置づけられる各教育・保育機関の理念や方針に基づいて構想される保育・教育課程や指導計画について理解する。						
テキスト	幼児教育課程論						
授業計画	第1回	保育における計画と評価の意義					
	第2回	カリキュラムの基礎理論					
	第3回	教育課程の変遷					
	第4回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領の性格					
	第5回	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成					
	第6回	幼稚園における指導計画の在り方と書き方					
	第7回	保育における記録のあり方					
	第8回	保育における記録方法					
	第9回	保育における評価方法					
	第10回	保育における評価(まとめ)					
	第11回	園内研修の必要性と方法					
	第12回	保幼小の接続					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	前期									
科目名	保育内容総論	授業形態	講義	単位数	1単位									
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護と教育が一体となった保育、領域の考え方や保育内容を総合的に理解する。</li> <li>・園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育実践と結び付ける。</li> </ul>													
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 領域別に学んだ内容を実際の子どもの姿と結びつけて総合的に理解する。</li> <li>2) 保育所保育指針等に基づく保育内容の基本的理解が深まるようにする。</li> </ol>													
テキスト	姫路大学「保育内容総論」、保育所保育指針、幼稚園教育要領													
授業計画	第1回	保育の全体構造(1) 保育とは、幼稚園・保育所・認定こども園とは												
	第2回	保育の全体構造(2) 指針・要領と養護と教育に一体化												
	第3回	保育の全体構造(3) 領域の考え方と乳児保育												
	第4回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(1) 環境を通しての保育												
	第5回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(2) 遊びによる総合的保育												
	第6回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(3) 生活と遊びと保育者の役割												
	第7回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(4) 保育者の役割まとめ												
	第8回	乳幼児にふさわしい生活と保育内容(5) 幼保小の連携について												
	第9回	科目修了テスト												
	第10回	全体的な計画の作成と指導計画(1) 全体的な計画の作成												
	第11回	全体的な計画の作成と指導計画(2) 指導計画の作成手順と配慮												
	第12回	保育の評価と保育の記録(1) 幼児理解に基づく評価												
	第13回	保育の評価と保育の記録(2) 観察記録を書く意味と幼児理解												
	第14回	保育内容の歴史の変遷												
	第15回	期末テスト												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	後期		
科目名	乳児保育 I	授業形態	講義	単位数	2 単位		
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	私立乳児園での勤務経験から、現場で求められる乳児保育担当者の資質・能力が培われるよう、実践的指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の理念と役割を理解する</li> <li>・3歳未満児の発達を理解し、個々の発達を促す保育内容とは何か考える。</li> </ul>						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳児保育の理念・役割・発達を理解し、学んだことを整理しまとめる。</li> <li>2) 事例をとおして、乳児のかかわり方を知る。</li> </ol>						
テキスト	姫路大学「乳幼児保育」、保育所保育指針、日本が誇る丁寧な保育、0.1.2.歳児の発達と保育						
授業計画	第1回	「赤ちゃんの不思議」を視聴し、赤ちゃんのしらせざる能力を知り、乳幼児に興味をもつ					
	第2回	乳児保育とは 乳児保育の基本と子どもの最善の利益について					
	第3回	乳児保育における「養護」と「教育」の一体性とは					
	第4回	乳児保育の歴史と現代における乳児保育の役割と機能					
	第5回	0歳児の発達特徴と保育者の援助					
	第6回	1歳児の発達特徴と保育者の援助					
	第7回	2歳児の発達特徴と保育者の援助					
	第8回	乳児の発達を促す保育者の関わり(事例)①					
	第9回	乳児の発達を促す保育者の関わり(事例)②					
	第10回	保育所における子育て支援					
	第11回	乳児保育と子育て支援					
	第12回	乳児の衛生面・安全面を7考慮した保育のあり方					
	第13回	乳児の生活習慣を育む保育者の援助・配慮について					
	第14回	赤ちゃんの記録づくりを通し、赤ちゃんが保護者にとってどれほど大切かを学ぶ					
	第15回	科目修了テスト					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)	
科目名	実習指導 I	授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当教員	笠井 多佳子・金子 直也	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	公立保育士として勤務を経て、実習指導担当の経験を活かし、今の時代、今の学生の姿に合った実習とは何かを問いながら授業を行ってきた。その中で、様々な保育実技に関するスキルや様々な場面において「子どもの気持ちに寄り添う」とこの意味を学生と一緒に考え、ステップアップに繋がりたいと考える					
授業のねらい (到達目標)	①実習のマナーや保育者としての倫理などについて理解する。 ②保育用語を知り、文章力や日誌の書き方などを身に付ける。 ③模擬保育を通して、保育者の配慮に気付く。 ④グループ実習を通して、保育を観察する力を養う。 ・子どもの育ちについて ・保育者の援助やその意図について ・保育環境やその意図について					
授業概要	①テキストや実習のしおりを通して、実習のマナーや保育者の倫理などについて理解する。 ②グループ実習の日誌や指導案を実際に書き、文章力や書き方を身に付ける。 ③グループ実習を通して、0歳～5歳の育ちや必要な援助などを学ぶ。					
テキスト	「実習のしおり」、大豆生田啓友ほか編著「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規、乳幼児の発達と保育研究会著「0・1・2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活」「3・4・5歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活」郁洋社、宮里暁美編著「0・1歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる 思いをつなぐ保育の環境構成」「2・3歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる 思いをつなぐ保育の環境構成」「4・5歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる 思いをつなぐ保育の環境構成」中央法規					
授業計画	第1回	・授業の進め方や受け方について ・実習のマナーや取り組み方について(「実習のしおり」より)				
	第2回	実習のマナーや取り組み方について(「実習のしおり」より)				
	第3回	・実習のマナーや取り組み方について(「実習のしおり」より) ・実習ファイルの作成				
	第4回	3～5歳児の子どもの育ちや必要な援助について				
	第5回	・3～5歳児の子どもの育ちや必要な援助について ・実習のマナーや取り組み方についての再確認				
	第6回	・実習の振り返り ・0～2歳児の子どもの育ちや必要な援助について				
	第7回	実習の振り返りを兼ねた簡易的な日誌の作成				
	第8回	観察実習の仕方や取り組み方について確認				
	第9回	・日誌の書き方について ・観察実習の観察記録をもとに、実際に日誌の作成				
	第10回	・参加観察実習の仕方や取り組み方について確認 ・保育実技について				
	第11回	・参加観察実習の仕方や取り組み方について確認 ・保育実技について				
	第12回	・日誌の書き方について ・参加観察実習の観察記録をもとに、実際に日誌の作成				
	第13回	・参加観察実習の仕方や取り組み方について確認 ・保育実技について				
	第14回	・参加観察実習の仕方や取り組み方について確認 ・保育実技について				
	第15回	実習の振り返り				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

# 授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)	
科目名	実習指導 I	授業形態	演習	単位数	2単位	
担当教員	笠井 多佳子・金子 直也	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	公立保育士として勤務を経て、実習指導担当の経験を活かし、今の時代、今の学生の姿に合った実習とは何かを問いながら授業を行ってきた。その中で、様々な保育実技に関するスキルや様々な場面において「子どもの気持ちに寄り添う」ことの意味を学生と一緒に考え、ステップアップに繋がりたいと考える					
授業のねらい (到達目標)	①望まれる保育者の姿に関心をもち、自身を振り返りながら保育者としての在り方を身に付ける。 ②指導案の立て方を知る。 ③『ねらい』をしっかりとって実習することの大切さに気付く。					
授業概要	①テキストと保育現場での実際をリンクさせながら、求められる保育者像について学ぶ。 ②育ちに合った指導案のテーマ選びや立て方を指導する。 ③グループ園実習を通して、めあてをもって実習に取り組む大切さを伝える。 ④外部実習に向けての準備を進める。					
テキスト	「実習のしおり」、大豆生田啓友ほか編著「学生・養成校・実習園かどもに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規、乳幼児の発達と保育研究会著「0・1・2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活」「3・4・5歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活」郁洋社、宮里暁美編著「0・1歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる 思いをつなぐ保育の環境構成」「2・3歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる 思いをつなぐ保育の環境構成」「4・5歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる 思いをつなぐ保育の環境構成」中央法規					
授業計画	第1回	時系列の日記の書き方・日記におけるねらいの設定・ねらいに着目した日記の書き方を学ぶ				
	第2回	時系列の日記の書き方・日記におけるねらいの設定・ねらいに着目した日記の書き方を学ぶ				
	第3回	時系列の日記の書き方・日記におけるねらいの設定・ねらいに着目した日記の書き方を学ぶ				
	第4回	部分実習指導案の書き方を学ぶ				
	第5回	部分実習指導案の書き方を学ぶ				
	第6回	部分実習指導案の書き方を学ぶ				
	第7回	部分実習指導案の書き方を学ぶ				
	第8回	部分実習やチャレンジシートについて振り返りをする。外部実習に向けて自分の課題を明確にする				
	第9回	部分実習の実践を踏まえて部分実習指導案の作成をする				
	第10回	部分実習の実践を踏まえて部分実習指導案の作成をする				
	第11回	模擬保育・保育実技・保育ネタの発表会				
	第12回	模擬保育・保育実技・保育ネタの発表会				
	第13回	模擬保育や保育ネタをもとに部分実習指導案の作背をする				
	第14回	部分実習指導案の作成・施設の交流見学に向けて準備をする				
	第15回	施設交流見学保育ネタの実践				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席  平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度  上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(前期)		
科目名	教材研究 I	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	阿部裕子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定子ども園での24年の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	絵本や紙芝居の読み語りの基本的な技術をはじめ、様々な保育技法を習得する 制作の際必要となる基本的知識技術を学び、保育グッズを実際制作したり実技方法について考える						
授業概要	絵本や紙芝居の年齢別選び方やポイント、持ち方、読み方について学び実演をする 手あそびモノ遊びなどを覚えて実際にやってみる 壁面装飾や製作あそびに必要な基本等を実際の素材や道具を使用し学びあう 自分なりの工夫を凝らして保育グッズを作る できたら演じて見せ合う						
テキスト	「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	前期の授業内容・採点方法について 図画工作室の使い方片付け方 道具箱の中身の説明・使い方・実際に使ってみる					
	第2回	手あそびについて学び、様々な年齢に向けての手あそびの実演を参考に実際にやってみる テキスト「すきま時間あそび107」&プリント 手あそびは、前期末までに一人最低でも10曲以上覚える					
	第3回	絵本の年齢別選び方、持ち方・読み方について学ぶ					
	第4回	自己紹介や絵本の導入に使える手あそびと、絵本の終わり方について					
	第5回	紙芝居の年齢別選び方・めくり方・仕掛けについてと読み方の実演					
	第6回	制作のための基本的な知識と指導のポイントや裏技について プリントや実際の物を確認しながら、教材の素材と利用の知識やコツを知る					
	第7回	簡単なペープサート・カードシアターなど年齢別に様々な実演を見たり、資料を調べたりしながら自分の作りたい物を決められるようにする					
	第8回	制作を開始する					
	第9回	全員完成を目指す					
	第10回	実際に演じて見せ合い、子どもたちの前での実践方法を考えながら学び合う					
	第11回	保育で使用するグッズ第2段の制作 スケッチブックシアター(自己紹介用を含む)					
	第12回	↓					
	第13回	↓					
	第14回	完成した者から演じる練習をする					
	第15回	各自が覚えた手あそびを披露し合い、全員で共有する					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

# 授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	1学年	開講期	通年(後期)		
科目名	教材研究 I	授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当教員	阿部裕子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定子ども園での24年の勤務経験から、現場に役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	子どもが楽しめるグッズを作り、演じ方を考えて確実に使える物にする いろいろな素材に親しんで、保育のポケットを充実させることで技術の向上を図る						
授業概要	保育現場で役立つ制作や、いろいろな素材を使ったあそびを体験し、その応用を考える 個人やグループでの発表の経験を積み、演じ方や基本的な技術を習得する						
テキスト	「すきまあそび時間107」&プリント						
授業計画	第1回	テキスト「すきま時間あそび107」であそぶ					
	第2回	オリジナルのネタ帳作成					
	第3回	保育現場で役立つグッズ制作(ペープサート・パペットなど) part①					
	第4回						
	第5回	▼ 完成した者から、演じ方を考える					
	第6回	発表する					
	第7回	保育現場で役立つグッズ制作(不思議カード、変身紙皿など) part②					
	第8回	身体を動かすあそび・遊戯系など					
	第9回	保育現場で役立つグッズ制作(手袋シアターなど) part③					
	第10回						
	第11回	▼					
	第12回	パネルシアターについて学ぶ 自分の作りたい物を決める 制作開始					
	第13回						
	第14回	▼ 完成した者から演じる練習をする					
	第15回	発表する					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						